

関西電力大飯発電所の視察について

1. 日 時：平成26年2月5日（水） 14：00～17：00

2. スケジュール：

内 容	
14：00	○ <u>発電所到着</u>
14：00 (45分)	○ <u>挨拶、概要説明（研修館2F中ホール）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・発電所概要説明 ・安全性向上対策概要説明 ・ご視察ルート説明 ・個人認証手続き
14：45 (115分)	○ <u>発電所構内視察</u> <ul style="list-style-type: none"> ① 免震事務棟設置箇所（工事実施状況） [車中から] ② No. 2モニタリングポスト（電源対策状況） [現場] ③ 吉見橋（防波堤、海水ポンプ防護壁） [現場] ④ 可搬式代替設備（代替低圧注水ポンプ、電源車等） [現場] ⑤ 4号機使用済燃料ピット [シースルー] ⑥ 3, 4号機タービン発電機 [シースルー] ⑦ 3, 4号機中央制御室 [シースルー] ⑧ 南側トレンチ [現場]
16：40 (20分)	○ <u>質疑応答・意見交換（研修館2F中ホール）</u>
17：00	○ <u>発電所出発</u>

大飯など6原発合格へ

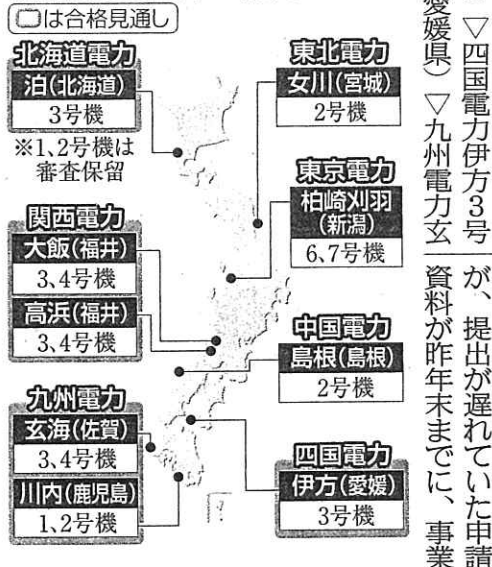
再稼働審査 今春にも第1号

原発の再稼働に向けて、新規制基準の適合性審査(安全審査)を申請した9原発16基のうち、先行して申請があった6原発10基が審査に合格する見通しになったことが19日、原子力規制委員会などへの取材で分

かった。早ければ今春には「合格第1号」が出るという。関西電力大飯原発(福井県)が昨年9月に停止して以来、「原発稼働ゼロ」が続いてきたが、ようやく再稼働への道筋が見えてきた。

規制委関係者によると、審査合格の見通しが立ったのは、北海道電力泊3号機▽関電大飯3、4号機(福井県)▽同高浜3、4号機

規制委が審査中の原発



(同)▽四国電力伊方3号機(愛媛県)▽九州電力玄海3、4号機(佐賀県)▽同川内1、2号機(鹿児島県)。関係者は「不合格になる原子炉はないだろう」との見解を明らかにした。大飯、高浜、玄海、川内の各原発の審査は、夏までに終える見通しだったが、いずれかが前倒しされる可能性も出てきた。

規制委は昨年7月の新規制基準施行後、今月17日までに計69回の審査会合を開いた。半年を目安としていた審査期間は延びているが、提出が遅れていた申請資料が昨年末までに、事業

者から続々と提出された。当初、審査で最も先行していたのは、事故時の前線基地となる「緊急時対策所」を唯一完備していた伊方原発。しかし、斜面が多いという立地条件の下、電源車やポンプ車など可搬設備の運用に難点が生じているため、玄海と川内が先頭集団に変わったという。

審査終了後も、地元同意を得る必要があり、再稼働にはなおクリアすべき課題が残るが、電力需要が高まる夏に複数原発の再稼働が現実味を帯びてきた。

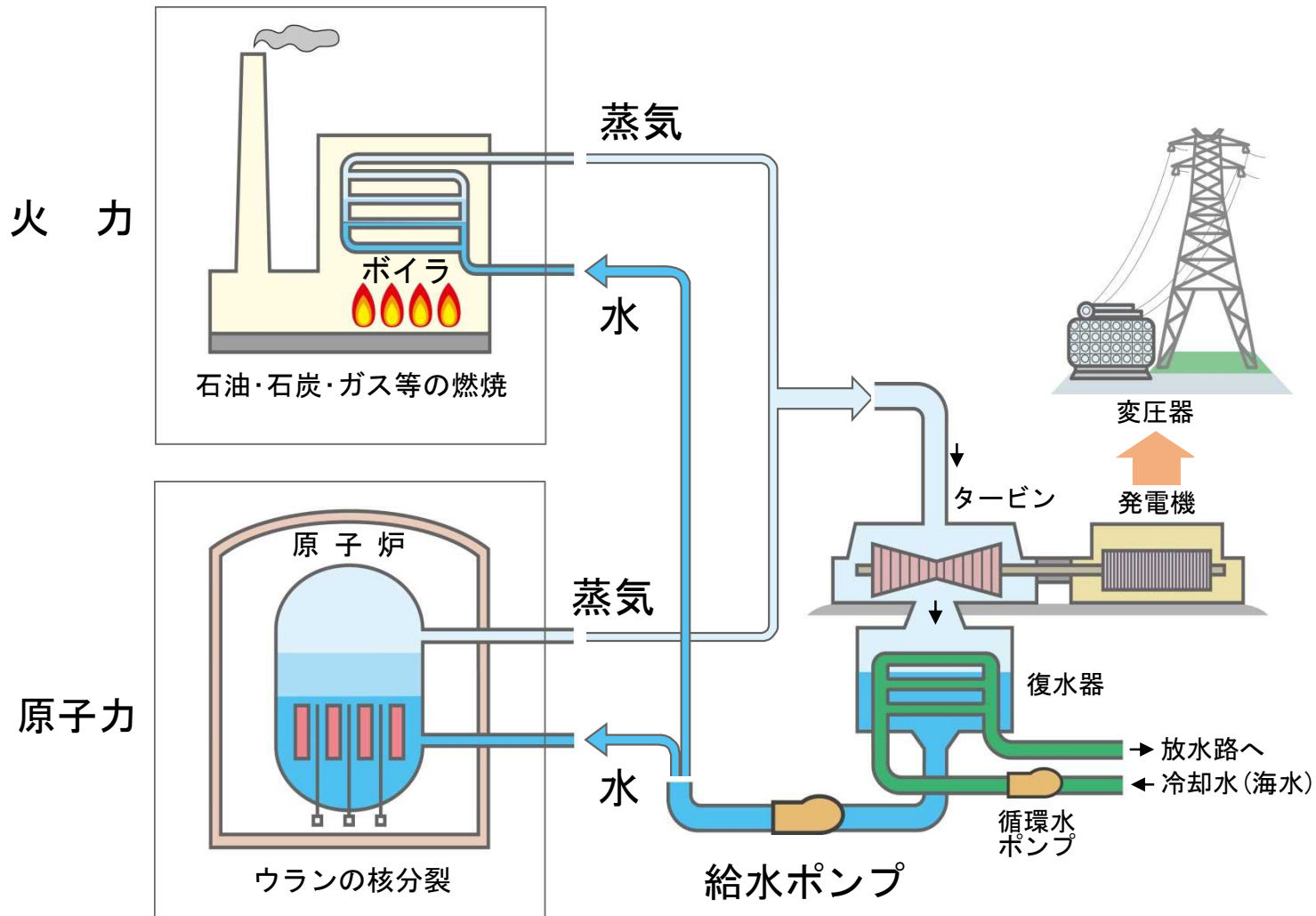
一方で、泊1、2号機は申請の不備で審査保留。重要設備の運用で地元との調整に難がある東京電力柏崎刈羽6、7号機(新潟県)も、審査が事実上ストップした。中国電力島根2号機や東北電力女川2号機(宮城県)は昨年末に申請され、審査は始まったばかりだ。(原子力取材班)

関西電力大飯発電所の視察について

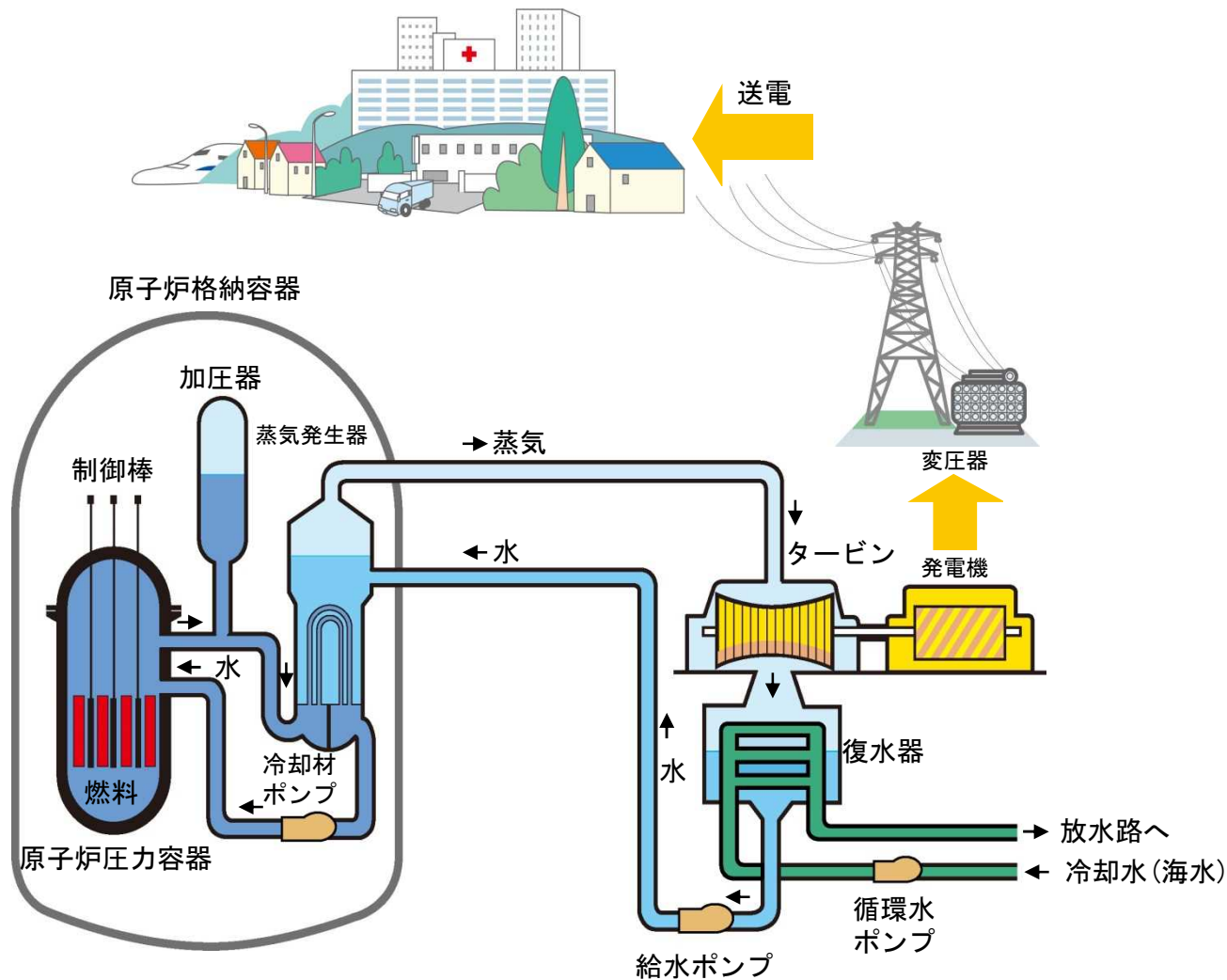
2014/2/5

滋賀県原子力防災室

火力発電と原子力発電の違い



加圧水型炉 (PWR) 原子力発電のしくみ

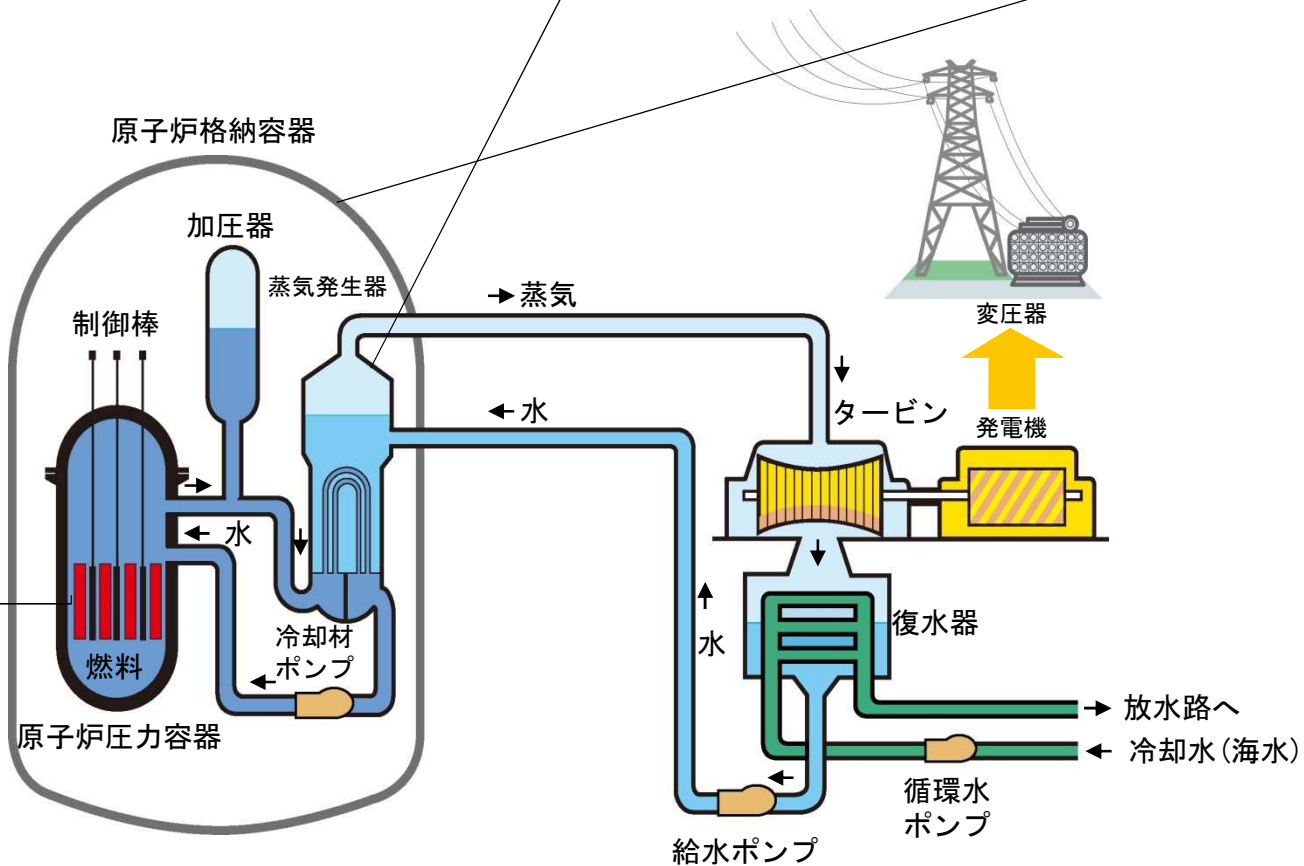


防護対策

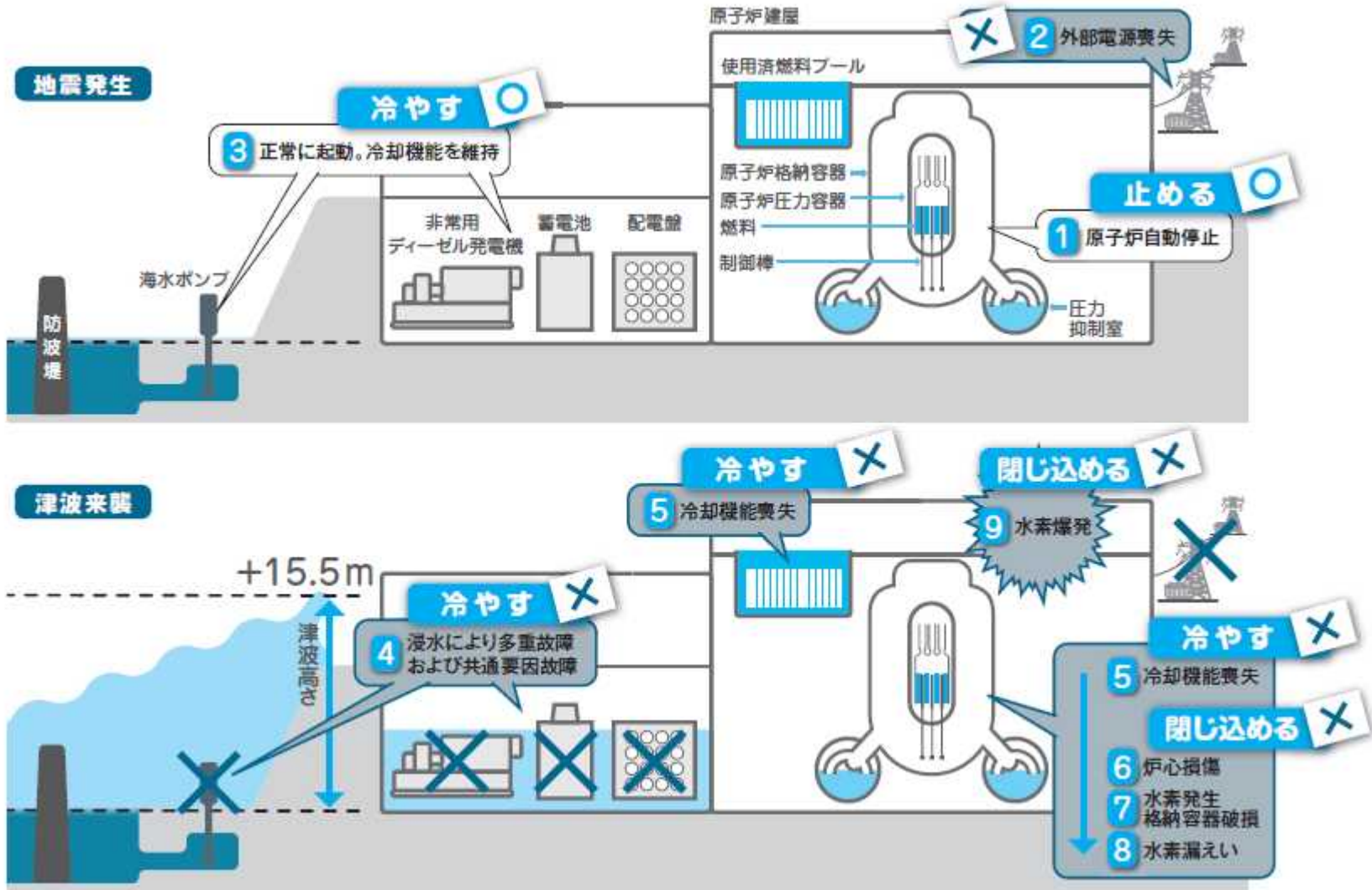
止める

冷やす

閉じ込める



福島第一原子力発電所事故の概要



新規制基準

<従来の規制基準>

シビアアクシデントを防止するための
基準(いわゆる設計基準)
(単一の機器の故障を想定しても炉心
損傷に至らないことを確認)

自然現象に対する考慮
火災に対する考慮
電源の信頼性
その他の設備の性能
耐震・耐津波性能

<新規制基準>

意図的な航空機衝突への対応
放射性物質の拡散抑制対策
格納容器破損防止対策
炉心損傷防止対策 (複数の機器の故障を想定)
内部溢水に対する考慮(新設)
自然現象に対する考慮 (火山・竜巻・森林火災を新設)
火災に対する考慮
電源の信頼性
その他の設備の性能
耐震・耐津波性能

新設 (テロ対策)
新設 (シビアアクシデント対策)
強化又は新設
強化

緊急事態区分

		緊急事態区分における措置の概要
緊急事態区分	警戒事態	体制構築や情報収集を行い、住民防護のための準備を開始する。
	施設敷地緊急事態	P A Z内の住民等の避難準備、及び早期に実施が必要な住民避難、等の防護措置を行う。
	全面緊急事態	P A Z内の住民避難等の防護措置を行うとともに、U P Z及び必要に応じてそれ以遠の周辺地域において、放射性物質放出後の防護措置実施に備えた準備を開始する。放射性物質放出後は、計測される空間放射線量率などに基づく防護措置を実施する。

緊急時活動レベル（EAL）

施設敷地緊急事態

EAL区分	EAL番号	EAL略称
放射線量・放射性物質放出	SE01	敷地境界付近の放射線量の上昇
	SE02	通常放出経路での気体放射性物質の放出
	SE03	通常放出経路での液体放射性物質の放出
	SE04	火災爆発等による管理区域外での放射線の放出
	SE05	火災爆発等による管理区域外での放射性物質の放出
	SE06	施設内（原子炉外）臨界事故のおそれ
止める	—	—
冷やす	SE21	原子炉冷却剤漏えいによる非常用炉心冷却装置作動
	SE24	蒸気発生器給水機能の喪失
	SE25	全交流電源の30分以上喪失
	SE26	全交流電源の5分以上喪失（旧基準炉）
	SE27	直流電源の部分喪失
	SE29	停止中の原子炉冷却機能の喪失
	SE30	使用済燃料貯蔵槽の冷却機能喪失
閉じ込める	SE41	格納容器健全性喪失のおそれ
	SE42	2つの障壁の喪失または喪失の可能性
	SE43	原子炉格納容器圧力逃し装置の使用

視察ポイント

① 免震事務棟設置箇所（工事実施状況）

➡ 新規制基準…特定安全施設の整備
（緊急時の指揮所の確保・整備、電源、通信機能の確保）

② No. 2モニタリングポスト（電源対策状況）

➡ 新規制基準…電源対策の強化
EAL …放射性物質の放出（ $5 \mu\text{Sv/h}$ の検出）

③ 防波堤、海水ポンプ防護壁

➡ 新規制基準…津波対策の強化

④ 代替低圧注水ポンプ

➡ 新規制基準…格納容器圧力抑制、炉心損傷を防ぐための代替注水設備の配備

視察ポイント

⑤ 電源車

➡ 新規制基準…電源対策の強化

⑥ 4号機使用済燃料ピット

➡ 新規制基準…代替注水設備の配備
EAL …冷却機能の喪失

⑦ 3, 4号機中央制御室

➡ 新規制基準…通信システムの強化
EAL …原子炉制御室の機能喪失